

## 受けてみませんか? 運転者向け脳ドック

取り返しのつかない事故を起こしてしまう前に、一度検査を。

近年、高齢者の運転によって重大な事故を引き起こすケースが相次いでいます。1月4日に東京でタクシー運転手が交通事故を起こしてしまったニュースは記憶に新しく、今回の交通事故ではタクシー運転手が事故前にもくも膜下出血を起こしていた可能性があるという報告がされています。警察庁の報告によれば、75歳未満の運転者と比較して、75歳以上の運転者による死亡事故は、免許人口10万人当たりの件数が2倍を超えており、事故への対策が急務となっています。



当院では、交通事故防止と認知機能の低下、脳疾患の早期発見を目的とした運転者向け脳ドック検診を行っています。交通事故の『加害者』にも、『被害者』にもならないため、健康で長生きするためにも、一度運転者向け脳ドックを受けてみてはいかがでしょうか。

### 運転者向け脳ドック検診内容

- 頭部MRI検査**  
 脳という組織に異常がないかを調べ、脳腫瘍や脳梗塞の発見に用います。
- MRA検査**  
 脳の血管に異常がないかを調べ、くも膜下出血の原因となる脳動脈瘤発見など、脳血管障害の発見に用いられます。
- VSRAD(ブイエスラド)**  
 脳の海馬傍回の萎縮程度を調べ、アルツハイマー型認知症の早期発見に役立てます。
- 問診、診察**



2月まで運転者向け脳ドック  
強化キャンペーン実施中です!  
詳細はお問い合わせください

お申し込みは、お電話

☎ 0146-42-0701 健診センターまで

検診をお考えの方は、電話(0146-42-0701)か、直接当院受付までお申し出ください。また、金額については年齢によって異なりますので、お電話にてお問い合わせください。



# Inkar - インカラ - vol.24



### - TOPICS -

新年ご挨拶  
院長の独り言  
受けてみませんか?  
運転者向け脳ドック



医療法人 徳洲会 日高德洲会病院

〒056-0005 北海道日高郡新ひだか町静内こうせい町1丁目10番27号

☎ 0146-42-0701

## 新年ご挨拶



院長  
井齋 偉矢

新年あけましておめでとうございます。帰省もままならず、旅行に出かけるのも躊躇される前代未聞の年末年始です。今年がどんな年になるかはCOVID-19次第ですが、この状況をコロナ危機とかコロナ禍とか呼んで落ち込むのではなく、今まで経験したことのない一大変革をする千載一遇のチャンスを与えられたと考えてはどうでしょうか。

そもそもヒトのゲノムの約半数がウイルス由来であり、生物は感染したウイルスの遺伝子をゲノムに組み込むことで、ウイルスと共生して飛躍的に進化してきました。今回のパンデミックは、もしかすると人類が大化けするきっかけになるかもしれません。

当院の新たな取り組みとしては、COVID-19感染者治療が必要になったときのために、感染者専用病棟を整備します。また、発熱者・感染者外来専用の外来棟を建てます。オンライン診療も準備ができ次第開始します。最大限の感染対策を行いながら、病院機能は決して落とさないで、今年も地域の皆様の健康に貢献していく所存です。

新年明けましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、コロナ禍での、いつもとは違う新年をどのようにお迎えでしょうか。昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、私たちの日常は奪われ、生活が一変しました。当院においても、院内感染・クラスターの発生を経験するなど、病院としての底力が問われた年だったと思います。そして、その困難を乗り越える中で、当院が地域の皆様に支えられていることに対し、感謝の想いをより一層強く感じる年でもありました。改めて、心よりお礼申し上げます。

新たな年を迎えても、病院での感染予防対策を緩める事はできません。今後も皆さまには、多大なご負担とご不便をおかけするかと思いますが、何とぞ、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。これからも当院は、皆さまの「健康と生活を守る病院」であり続けられるよう、職員一同で努めてまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

昨年は、世界的な感染症の広がり、多くの皆様にとり心身共に負担がかかり、大変な春夏秋冬となってしまいました。

当院も医療を提供する現場として早々に感染対策をおこなってまいりました。これからも地域の皆様が安心して生活ができる一助となれるように行政や近隣医療福祉介護施設と連携を取りながら対応していきたいと存じます。

当院は、やるべきことはハヤブサ2のごとく迅速に、さらに先を見据えて、焦らず・乱れず、確実な牛の歩みのごとく状況に対応してまいります。皆様には、本年もご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

本年が、日本・世界の皆様が少しでも安寧に近づけるよう祈念いたします。



看護部長  
光野 佳代



事務長  
狩野 義宗

## 院長の独り言

### オンライン『同時双方向型』のメリット・デメリット

世の中のいろいろな当たり前が、コロナのパンデミックによって大きく変わっています。そのひとつが、オンラインによる、授業、講演会、セミナー、イベントなどです。オンラインで情報を提供する方法は大きく分けて、録画した映像を各自で視聴する「オンデマンド型」と、リアルタイムで講師と視聴者をつなぎ、双方向によるコミュニケーションが行える「同時双方向型」があります。まだ検討段階ですが、近い将来小中学校でも、オンライン授業を正式な授業として認めようという動きがありますが、高校、大学ではすでに正式な授業とされています。今回は「同時双方向型」について、メリット・デメリットを考えてみます。



まずメリットは、実際に人を会場に集めるわけではないので、欠席・遅刻という概念がなくなり、少人数で運営でき、参加者の声の収集が容易で、どこにいてもどんな状況でも参加でき、開催時間が自由に設定でき、告知が直前でも大丈夫で、スライドが見やすいことなどです。

まずメリットは、実際に人を会場に集めるわけではないので、欠席・遅刻という概念がなくなり、少人数で運営でき、

次にデメリットですが、リアル感が低く一方通行になってしまう、ワクワク感が少ない、参加者の熱量と集中力が続かない、配信トラブルのリスク、参加者同士のつながりが作りにくいなどがあります。文科省が12月23日に公表した、調査では大学生から「教科書の場所を指定した課題がメールで届くだけで、講義の録画配信も行われず、これで授業と呼べるのでしょうか」とか「語学の授業では、音声も画質も悪く、発音が全く身につかない」とか「自習だけで先生の顔や性別すらわからないし、質問しても返事が来ない」などの不満が述べられています。授業や講義・講演の質が問われており、原稿棒読みでは教える方の力量や情熱が疑われることになりかねません。

私の漢方講演会は7月からはほとんどオンラインになり、リアルだったときに比べて、非常に多くの方に聴いて頂いております。多いときには800人以上になります。このような状況になって、今までよりもいいと思ったことは、チャット機能を使いますので、質問がしやすいということです。多いときには50以上のご質問が来ます。そこで双方向のメリットを活かすために、全てのご質問に回答しております。情報提供の質を高めるためには、情報を提供する側の、創意工夫が今までより一層求められていると思います。

## 謹賀新年

昨年中は並々ならぬご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。本年も昨年同様、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

七風木 サラ

